

大学院生プロジェクト型研究・研究成果報告書

研究代表者：下瀬川 陽 (教育政策科学研究コース)

■ 研究題目	
学校中退は職業生活における不平等をもたらすか？	
■ 研究代表者・分担者 氏名	
下瀬川陽 (教育政策科学研究コース) (代表者)	
■ 研究成果概要 (目的, 実施内容, 結果, 今後の課題など)	
<p>1. 目的</p> <p>本研究の目的は、学校中退が離学後のライフコースにどのような影響を与えるかを明らかにすることである。近年、学校中退は無業や非正規雇用といった好ましくない職業生活の入り口としてメディアに取り上げられることも少なくない。しかし、中退者のライフコースについての実証的な研究は我が国においてはほとんど行われてこなかった。したがって、中退後の平均的な姿および卒業者と比したときの状況は明らかになっていないことが多い。本研究においては、学校中退が貧困や低い社会経済的地位に転落・滞留するきっかけとなりうるかどうかを検証し、これまでの地位達成研究に新たな知見を加えることを目指す。</p> <p>2. 実施内容</p> <p>既存の大規模社会調査データを用いて計量分析を行った。また、それらのデータで得ることが不可能な情報を補うため、独自にインターネット調査を行った。</p> <p>独自調査の概要は以下のとおりである。</p>	
調査名	学校生活と職業に関する調査
調査対象	全国の 18-69 歳の男女で、最終学歴が高等教育中退または高校中退である者 (学生を除く)
調査時期	2016 年 2 月 10 日-12 日
抽出方法	調査会社が有するモニターのうち、対象条件に合致し調査に応じる者を定員に達するまで収集
データ数	400 (うち 300 が高等教育中退者, 100 が高校中退者のデータになるよう割付)

調査項目	中退した学校種 入学・中退年月 在学時の経験 中退理由 中退した学校名 現在の職業について 中退後最初に就いた職業について 父母学歴 父職業
調査協力機関	楽天リサーチ株式会社

なお、ここで高等教育とは4年制大学、短期大学、高等専門学校、専門課程を置く専修学校（各種学校）を指す。

3. 結果と考察

まず、既存の大規模調査データである「日本版 General Social Surveys」「東大社研・若年パネル調査および東大社研・壮年パネル調査」「社会階層と社会移動全国調査」の3つをマージし分析を行った。その結果からは、高等教育中退者は不安定で望ましくない状態でキャリアをスタートさせる一方で、ジョブ・ホッピングを繰り返しながら最終的には高卒者と同程度の職業的地位達成をみることができると言える。また高校中退とは異なり、高等教育中退の影響が見られるのはキャリアの初期に留まることが明らかになった。

次に独自調査データを用いて、高等教育中退に関してその理由と職業への移行とに関連が見られるかを検討した。その結果、中退の理由が年代・性別によって変化すること、初職を得るまでの期間や入職経路に中退理由による大きな違いは見られないことが明らかになった。

高校中退が低い社会経済的地位へ結びつく可能性が大きいのに対し、高等教育中退が中長期的に職業生活を困難にするような影響を与えるとは考えにくい。しかしながら高等教育中退においては、その当時の状況（理由）に関わらず初期のキャリア形成が阻害されるリスクが一定程度存在しうることが示唆された。

4. 今後の課題

以上の研究においては、中退者の属性についてはあまり考慮されていない。つまり、出身階層から中退を経由して到達階層に至るパスについては検討されていない。しかしながら、中退を選択する者に系統的な偏りが見られたり、出身階層によって中退と到達階層と

の結びつき方が異なることは十分に考えうることである。

また、独自調査データからは中退者の学校生活の様子や中退時期を知ることができる。これらとその後の職業生活との関連を検討することで、高等教育機関での学習や経験が我が国の労働市場においてどのように評価されるのかを明らかにすることができると考えられる。